

第五回 LCIF 国際委員エリア・MD コーディネーター会議要録

日 時：2017年6月20日（火） 13：00～16：30

場 所：キャッスルプラザ名古屋

出席者：

LCIF 国際理事	L.鈴木誓男
LCIF エリアコーディネーター（東日本担当）	L.大石 誠
LCIF エリアコーディネーター（西日本担当）	L.榎本舜治
330 複合地区 LCIF コーディネーター	L.安達成功
331 複合地区 LCIF コーディネーター	L.小野寺眞悟
332 複合地区 LCIF コーディネーター	L.渡邊 豊（欠席）
333 複合地区 LCIF コーディネーター次期予定者	L.中嶋正昭
334 複合地区 LCIF コーディネーター	L.加藤助太郎
335 複合地区 LCIF コーディネーター	L.北畑英樹
336 複合地区 LCIF コーディネーター	L.橋本充好
337 複合地区 LCIF コーディネーター次期予定者	L.増田敏雄
LCIF 日本事務所事務局員	平岩ひろみ、堀 郁世

議事進行： LCIF エリアコーディネーター L.榎本舜治

- 会議に先立ち、鈴木 LCIF 国際理事による次期就任予定の MDC 2 名（L.中嶋および L.増田）の紹介、および参加者全員の自己紹介があった。また、鈴木 LCIF 国際理事より参加者全員に AC、MDC のコーディネーター委嘱状が渡された。

議事：

1. 鈴木 LCIF 国際理事からの報告

- 新チーム Global Service Team (GST)の概要説明あり。次年度より、グローバル・アクション・チーム (GMT, GLT, GST, FWT) と LCIF が相互に協力して活動を進めていく。
- クラブ LCIF コーディネーターの設置が義務付けられるようになった。クラブ理事会の構成委員となる。会員数の少ないクラブは例外とし、他の役職との兼任を避けてもらいたい。前クラブ会長が望ましい。
- LCIF 理事会を構成する各委員会の概要説明あり。
- LCIF 事務総長レベッカ・ダウと協議した結果、今後日本国内の交付金申請については、事前に MDC が申請書を確認し、必要に応じて内容の調整を行っていく。その後 AC が書類を確認し、LCIF 日本事務所で申請書類を英文翻訳するとし、審査までの効率化を図っていくことを決定。申請書は事業内容を端的にまとめ、A4 用紙で 2~3 枚以内に収めるのが望ましい。

- 9/6 の公式訪問において、例年のセミナー・懇親会に加え、LCIF コーディネーターの勉強会も開催する。地区内の交付金申請に関する相談に対して、コーディネーターがヒアリングやアドバイスを行うなどしたい。次年度は交付金申請の効率化を目指す。交付金を通じて会員一人ひとりが LCIF に対する理解を深め、いずれは家族会員含めた会員全員による献金を目標としていきたい。そのためにはガバナーへの訴えかけが重要。
- 6月16日東京にてスペシャルオリンピックス日本と一般社団法人日本ライオンズのパートナーシップ調印式が行われた。来年は愛知県にて全国大会が開催される。2023年に日本で夏の世界大会の開催を目標としている。

2. MD コーディネーターによる活動報告

- 安達 330MDC : 地区 LCIF 委員長と会合を開き、地区毎の次期目標額を設定。交付金の申請が 3 件、内 2 件承認され、1 件が行政ですべき事業として却下された。LCIF のプロモーションビデオ URL を全クラブに配信し、積極的な活用を推奨。クラブコーディネーター（以下 CC）の選任のため案内を複数回出したが、役割について理解がまだ低い。A 地区は対前年比率日本一、C 地区はクラブ参加率 100%を達成し、複合全体として良い結果となった。
- 小野寺 331MDC : 1月のセミナーにて来期以降の CC 設置を依頼し、4月の次期役員会議にて配置状況を確認した。クラブの主体性、報連相の重要性を強調。献金の目的をより明確化すべきとの意見から、来期は複合全体ではしかイニシアチブを主に支援していくと決定。ガバナー公式訪問にて、一ドルで一人の命が助かる等、プロジェクトの趣旨説明を依頼。来期は、市民を巻き込んで複合全体でチャリティを行う提案が出るなど、地区間の壁をなくす動きが出ている。
- 中嶋次期 333MDC : 大祢 MDC からの報告として、4月に次期役員にて勉強会を開き、情報交換を行った。ガバナーとして、ガバナーと地区コーディネーター間の連携が取れていないと感じる。ガバナー協議会での LCIF に関する議論、またガバナーからの働きかけがないと、地区コーディネーターも活動がしづらく、地区全体の活性化が難しい。組織力を活用することで、献金額のアップにつなげていってはどうかと思う。
- 加藤 334MDC : A 地区は毎年献金額が高く、対前年比プラスが厳しいという所はあるが、他の地区においてプラスがあり、複合全体では前年度同等の献金実績となった。交付金の申請書および報告書の流れが不明確。各書類を提出前に AC、MDC が目を通せるよう体制を整えていきたい。今後に期待。
- 北畑 335MDC : 5月に理事長を招待しお茶会を開催。40万円強を集め、はしかイニシアチブに寄付。B、C、D 地区がクラブ参加率 100%を達成。次期は、地区ガバナーに機会あるごとに、LCIF への協力を口にしてほしい。また、CC の研修会などで、交付金を申請することも要請したい。コーディネーターの数が多いため、ガバナーの LCIF 関与を低減させる場合がある。地区内の交付金事業を伝えることで、LCIF の存在意義

をアピール。新旧役員会議を開き、諸問題や献金額の向上策について活発な議論を行った。

- 橋本 336MDC：一月に地区ガバナーらと会議を開き、勉強会と CC 配置の検討を行った。各地区の 3 役スクールにて LCIF の説明を行った。地区コーディネーターが活動しやすくなること、また全クラブに直接説明をすることで伝達の漏れをなくす狙い。地区コーディネーターからのクラブへの直接的な働きかけに期待し、目標達成を目指す。

3. 16-17 年度 日本の献金実績報告 (榎本 AC)

今年度の日本全体の献金実績について、榎本 AC より表・グラフ等の配布資料を用いて報告がされた。クラブ参加率や一人当たり献金額、前年比増減率、年間の献金額の推移、MD および会則ごとの献金額比率について説明あり。

4. 地区コーディネーター研修会の評価

次期地区コーディネーター研修会において、昨年度までは、エリア、複合地区および準地区のコーディネーター全員が出席の上、全体研修会を行っていたが、今年度は各 MDC が複合地区毎に研修会を開催したことについて、MDC で意見交換を行った。少人数であるため、活発な議論ができる、質疑応答の時間をフレキシブルに、また充分にとれるといった評価があった。

5. 2015-16 年度 LCIF 年次報告書について

今年は日本で年次報告書を印刷した。各クラブへの配布方法やセミナーでの使用について議論された。URL を送ることに決定。(主催者側で必要に応じてダウンロードや閲覧をして頂く。)

6. 次年度献金目標について (榎本 AC)

次年度の献金目標額を 1 千万ドルとし、今年度同様、一人当たり献金額 100 ドル、今期達成している地区は前年比 5% 増を目標とする。

鈴木理事よりコメント：8/2 の会合では、8 複合の GMT、GLT、GST、FWT、MDC、および各エリアリーダーが出席する。日本のグローバル・アクション・チームとして、今後は担当の職務のみでなくお互いに協力をしていって欲しい。各リーダーの協力なしには目標達成は難しい。準地区のことは MDC に委ねていく。

7. ボブ・コーリユー LCIF 理事長公式訪問について

9 月 5 日：ボブ・コーリユー理事長名古屋到着予定。送迎等の詳細は後日追って決定。

9 月 6 日：15 時から名古屋マリOTTアソシアホテルにて公式訪問および懇親会を開催。その前に研修会の開催を予定。

9月7日：愛知県内の知的障害者施設にて奉仕事業の視察を行う。

9月8日：LCIF 理事長日本発予定。

国際理事、ガバナー、第一副地区ガバナー、第二副地区ガバナー、大口献金者の方にご案内を出す。大口献金者の方には感謝の意を示すべく各種アワードを用意する。併せて理事長メダル表彰も行う。登録料は出席者全員の方から頂戴する。

8. LCIF アワードに関する協議と報告

- 現在日本国内のみにおいて交付されるアワード（3口以上献金者：LCIF 理事長感謝状、5口以上献金者：国際会長感謝状、特定の3つの基準のいずれかを満たすクラブ：LCIF 理事長感謝状）について再検討を行った。榎本 AC より、次年度以降は3口以上献金者に対するアワードを廃止し、5口以上献金者からを対象に発行するという提案あり。また、北畑 MDC より、累計の献金口数に対してアワードを発行すれば、継続的な献金に繋がるのではないかとの意見から、累計5口ごとに感謝状を発行するという提案がされた。達成した都度発送しても良いし、公式訪問などで渡しても良い。クラブに対する感謝状は、基準を複数満たしている場合であっても、今後は統一して1枚のみ発効することとする。

- LCIF 公式表彰プログラムである「献金会員プログラム」が2018年7月より「ライオンズ・サポート・プログラム」に変更される。

以下四つの表彰レベルで構成される。

- i. US\$20～US\$49.99：サポーターレベル
- ii. US\$50～US\$99.99：ブロンズレベル
- iii. US\$100～US\$149.99：シルバーレベル
- iv. US\$150以上の寄付：ゴールドレベル

9. 次期の MDC 活動計画および報告について（榎本 AC）

- 17-18年度で現 MDC は任期満了の為、次年度の次期地区コーディネーター研修会の開催方法については今後 MDC の意見を伺い協議し、年内には決定したい。
- 鈴木 LCIF 国際理事：2018年度以降の MDC 選任については実務を遂行できる適任者がいれば MDC より推薦してほしい。
- セミナー・研修会といった MDC 活動内容について、内容の詳細、評価および費用を、LCIF 日本事務所を通じて AC に報告するよう榎本 AC より依頼。また、活動費の予算や使用する資料の準備のためにも、次年度の年間活動計画表を提出してほしい。次第と参加者名簿の送付、また講評や質疑の内容等、活動の詳細を報告してもらえれば AC としても支援がしやすくなる。活動のなかった月についても報告してほしい。次年度からは報告時に AC だけではなく CC にて全 MDC にも送る。

10. ライオン誌の寄稿担当について

次年度より2カ月に一回の発行となる。初回は、16-17年度の振り返り、新MDCのご紹介、新年度の方針についてACが執筆する予定。各MDCに担当地区の特色ある事業、成功的な交付金事業など特筆すべき内容を特に取り上げてもらいたい。全9回の内、初回はAC2名が共同執筆、以降334MDC→330MDC→335MDC→331MDC→336MDC→332MDC→337MDC→333MDCの順に執筆頂くことに決定。

11. LCIF 交付金について (榎本 AC)

交付金申請の手順や事業内容、最終報告書迄についてアドバイスできるよう努力して欲しい。MDCやACの確認なしに申請されるということは今後なくして行きたい。

キャビネット会議で交付金申請書、最終報告書の内容を説明、審議し、また承認後議事録に残し、確認した上でガバナーは署名して頂きたい。(署名者が全責任者)

12. その他

- ・鈴木理事：MDC 会議はやむ得ない事情を除き、必ずご出席頂きたい。代理出席は不可。
- ・LCIF 年次報告書の会計報告について項目の詳細を後日事務局よりメール連絡する予定。

以上